	関係者	入学前相談〜3月		4月		5月
教育体制の整備	学部・学科 教務委員会 教務課 外国語センター 等	**情報共有と調査** 障害のある学生の存在について関係者に周知するとともに、授業受講上問題になりそうな場面を調査・把握する。 語学・実習・グループディスカッション・ビデオを用いる授業等	**代替措置の検討** リスニングや音の聴取が必須となる授業については、担当教員との相談の上、代替措置を検討する。	**配慮事項の周知徹底** 通常の授業について聴覚障害のある学生の参加を促す配慮について説明し、周知徹底する。 板書や資料の活用、参考文献の紹介、個別指導等	**授業開始 本人との個別調整** 実際の授業を行ないながら、配慮が必要な点がないか本人と個別に調整する。 ノートテイクなどのログを見せてもらうのも効果的	**ＦＤの開催** より効果的な授業の方法を検討するため、ＦＤを開催するなどしてステップアップを試みる。
情報保障体制の構築	学生課 教務課 クラス担任 ボランティア サークル等	**支援が必要な授業数の 把握と人材の確保** 本人のニーズと学部からの情報を元に、支援が必要な授業数を把握し、情報保障者の確保を始める。 一般的には、聴覚障害のある学生１人に20〜30人の情報保障者が必要	**養成講座の開講** 集まった人材を対象に養成講座を実施。講師は地域の要約筆記団体等に派遣を依頼する。 集中講義（5時間×２日間）などが一般的	**情報保障者の登録と シフト作成** 養成講座の受講者を情報保障者として登録するとともに、新学期のシフトを作成する。	**情報保障者との顔合わせ 授業開始** 情報保障者と聴覚障害のある学生を引き合わせ、初回の授業に臨む。 初回授業の後は、聴覚障害のある学生・支援学生ともに密なフォローを	**支援方法の評価 再検討** １ヶ月ほど経過したら再度聴覚障害のある学生と面談を行ない、支援方法について評価・再検討する。
聴覚障害学生支援	本人 クラス担任 学生課 ボランティア サークル等	**支援を受ける準備と心構え** 先輩の話を聞くなどして大学生活に対するイメージをふくらませ、心の準備をうながす。 聴覚障害のある先輩に会って話を聞くのも効果的。人材確保のビラ作成などにも積極的に協力依頼を	**養成講座への参加** 養成講座に参加して支援学生と交流するとともに、自らの障害と支援の必要性についてアピールできるよう援助する。	**履修科目の選択** 先輩や友人の情報を元に授業時間割の作成。改めて特別な配慮が必要な授業がないかを確認する。 わからないことを周囲に伝え、積極的に支援を求める姿勢を育てることも大切	**授業開始** 教員や学生から支援を受けながら授業開始。気になる点については積極的に伝えられるよう練習させていくことも重要。	**支援方法の評価** これまでの授業を振り返り、うまく参加できなかった点を整理して提示してもらう。支援学生との関係作りにも積極的な関与をうながす。
支援学生支援	学生課 支援学生 聴覚障害学生 等	**リクルーティング** 潜在的に関わりを持ちたいと思っている学生の気持ちを引き出すようなアプローチを検討する。 経験者の話を聞いたり、聴覚障害のある学生に実際に会って話をさせるのも効果的	**スキル形成** 養成講座にて最低限の技術を身につけるとともに、支援者の役割を理解させる。	**担当科目の決定** 「できる」「やってみよう」という思いをもたせ、何かあったとき大学としてバックアップできる体制を表明する。	**支援開始** 「できなかった」という思いを次回への反省点につなげられるよう援助する。 この時期のフォローアップは支援継続に非常に重要	**モチベーションの向上と チームビルディング** 支援学生のやる気を育て、個々の学生が支援コミュニティの構成員として主体的に支援できるよう働きかける。